長崎高教組

定通部だより

2017 年 9 月 1 日
第 1 号
発行責任者　烏山 隆弘

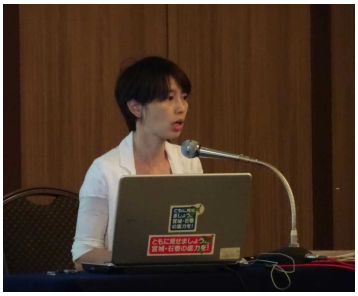
ホームページ　http://nagasaki-kokyoso.org
メールアドレス　info@nagasaki-kokyoso.org

全国定通教育学習交流集会 in 富山

希望を紡ぐ定通教育　～すべての若者に明るい未来を～

・日　　程　2017年7月28日(金)～30日(日)
・会　　場　グランテラス富山　富山県富山市桜橋通り2-28
・本県参加者　濱本 功二(佐世保中央夜間)、山本 朋子(佐世保中央通信)、烏山 隆弘(鳴滝夜間) 計3名

1 講 演 「子どもの貧困 ～困難の背景を知り、解決策を探る～」
中塚 久美子 さん（朝日新聞大阪本社生活文化部記者）


中塚さん

（１）はじめに …… 食べ物と屋根があれば、それでいいのか？

貧困は、その人自身の責任であるという「自己責任論」の考え方は、生徒と向き合うはずの教師の間にも存在する。

・生活保護費が減額になるのをわかっていながら、アルバイトを頑張る生徒
・仕事もしていないのに、子どもを大学に行かせるのか?! という社会の目

このような理不尽な「自己責任論」との戦いに終止符を打ちたい。

（２）貧困の定義 …… スマホは贅沢品か？

・絶対的貧困：食べるものがない等
・相対的貧困：スマホは必需品 ←アルバイトのシフト連絡

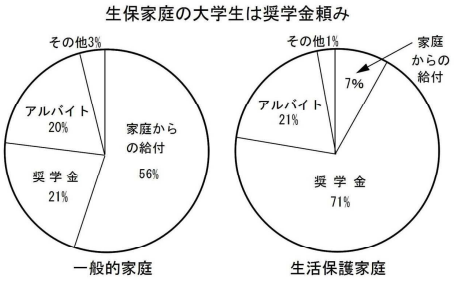
生活保護世帯の子どもの教育状況

	高校進学率		高校中退率	大学進学率		
	全体	全日制		全体	大学	専修
全国平均	98.8%	91.4%	1.5%	73.2%	51.8%	21.4%
生活保護世帯	92.8%	67.4%	4.5%	33.4%	20.0%	13.5%

（３）貧困の構造

年間収入別補助学習費（塾費用）…学校外で教育格差拡大生活保護家庭の子どもは、制度上大学進学できない。世帯分離によって初めて可能になるが、授業料や生活費は、奨学金やアルバイト収入で賄われる。

高校生が奨学金を大学受験料や入学金に使っても、生活保護費が減額されないように厚労省が方針転換したのは2016年。以前は、収入認定され、保護費が削減されていた。学費や生活費の７割が奨学金。半数が４００万円以上借り入れ、ハイティーン段階で厳しい状況に落とし込まれている。



（４）貧困の連鎖

・複合的困難（夫婦不和や不安定就労、一人親等）を抱える児童虐待 → 親からの隔離より親への支援が大切。
・親の生育歴・心身の状態……生活保護受給の母子家庭の４割が、母親も生保家庭で育つ。母親の精神疾患世帯は約３割。低学歴、１０代出産、DV 被害、病気、薬物中毒、売春、虐待等、１つの家庭で３～４の項目が重複。
・子どもは貧困を孤立や無力感という形で経験し、諦めることと夢を持たないことで自己防衛していく。

（５）親が抱える困難の原因

① 女性の低賃金 → 長時間労働 → 家族との時間が減る（体調を崩す）→ ひとりご飯・夜の出歩き → 時間確保（治療）のため仕事を１つにする → 生活が苦しくなる
② 養育費不払い → 母親がダブルワークで夜不在 → ネグレクトと呼ばれる
③ 児童扶養手当給付が毎月支給ではない（４ヶ月に１回）→ 家計を不安定にする

（６）様々な支援 …… 子どもの居場所づくり

① 学習支援 …… 塾代わりではなく子どもの生活や精神面を底支えする地域のセーフティーネット
② 育ちの支援 … 「山科醍醐こどものひろば」（京都市）：夜ひとりで暮らす子どものための学習支援、夕食、遊び、風呂の提供（本来、家庭ですること）
「暮らしづくりネットワーク北芝」（大阪箕面市）：子ども地域通貨「まーぶ」発行。手伝いや仕事体験で稼いで使うことができる。20分100まーぶ＝100円。まーぶを貯めたら奨学金支給。
③ 子ども食堂 … 孤食、食事がとれていない子を対象に無償または安価で食事を提供（全国318カ所）

（７）既存制度を点検

① 法整備…子どもの貧困対策法（2014年施行、都道府県の計画策定は努力義務）の問題点は、貧困率の削減数値目標がない。保育・医療に触れていない。
② 完全給食…栄養格差縮小。進級･卒業した生徒の給食摂食率は､進級･卒業できなかった生徒の２倍。
③ 生活保護と収入認定 …… 収入認定＝保護費減額の壁
・奨学金を大学授業に使う場合は、収入認定とされる。
・海外渡航：冠婚葬祭、修学旅行、公的機関主催の大会出場（招待または選抜）の３条件以外不可能。

２ 特別報告Ⅰ「困難を抱える子どもたちと性の問題」
種部 恭子 さん（女性クリニック We! TOYAMA 院長）

種部さん

中高生の性の商品化や性虐待等の問題に正面から向き合い、子どもたちの健康な性を育む活動を展開。問題点を分類し、現状と背景を分析。それぞれに具体的方策を提案。

性虐待 → 相談できない → 温もりへの依存・家族への憧憬
10代同士の出産 → １年後、関係継続率１％ → 10代出産女性の２人目の子どもは、別の相手
10代出産による社会福祉費用は GDP の２％ → ピル無料・10代出産保育所優先入所等を提案

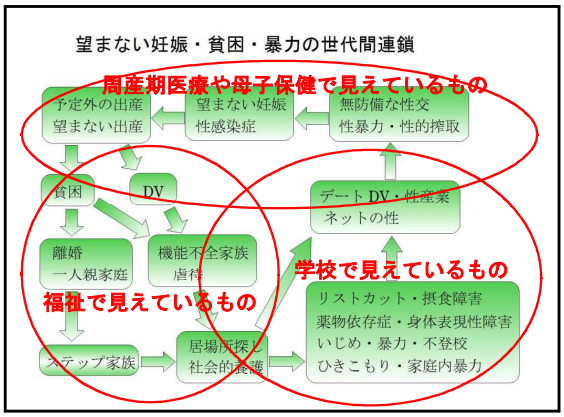
ＤＶサイン（ボーっとしている、目立たないようにしている）

暴言の中で育つ
↓
聴覚野機能が低下
↓
自分が不幸になる方を選択
心の扉を閉じる

被害者が抱える困難
① 家庭に居場所がない
両親の不和、DV、離婚、被虐待等
② 学校に居場所がない
いじめ、不登校、友人関係のトラブル
③ 経済的困難を抱えている
親が就業していない／就業できない
④ 発達障害や心身の障害がある
軽度知的障害､精神疾患､発達障害､PTSD 等

被害者を取り巻く環境
① SNSにつながりを求める少女への求人サイト
「写真見てかわいいと思ったので連絡した」
「よかったら面接だけでも友達と一緒にどうぞ」
② 求人情報サイトに少女の目にとまりやすい情報
「10代の今しかできない高額現金日払いバイト」
「通信制の子も､定時制の子も､高校に行ってない子も大歓迎」
「女子高生無料休憩コーナー新設しました」
「携帯の充電できます」→神待ちサイト

３つのタイプ　共通点は「さびしい」
① 好きになって何が悪いタイプ
浮いたらオシマイ
← デート DV 防止教育
確実な避妊の提供
② 居場所がないタイプ
生き延びるための「性」
大切にされていると感じたことがない
← 確実な避妊の提供
生活基盤の安定
③ 居場所があるようで、ないタイプ
教育虐待､毒親､面前 DV ､機能不全家族
息苦しくない場所がほしい
← 確実な避妊の提供
親離れの支援
DV 家庭の子どものケア



二次元への依存 ← AI が自分好みの女性を育てる
思い通りにいかないことを学ぶのが恋愛。学びの多い恋愛と生きづらさに立ち向かうにために最も大事なことは、将来を描けること。

3 分科会

① 定時制生徒の健康と夜間給食問題　② 後期中等教育の保障と定数内不合格問題　③ 高校生の分科会

第１分科会概要：夜食給食調査報告（北海道旭川工業）…2014年民間委託化により、質・量・調理員の対応劣化。生徒たちの不満からアンケート（1～3）を実施。委託業者や道教委にも結果を提示。

1 給食の美味しさ

調査時期	とても美味しい	美味しい	美味しくない
2010年9月	58.4％	36.6％	5.0％
2014年5月	4.4％	55.6％	40.0％
2017年2月	15.7％	26.3％	57.9％

2 朝食・昼食摂取状況（朝食・昼食ともに）

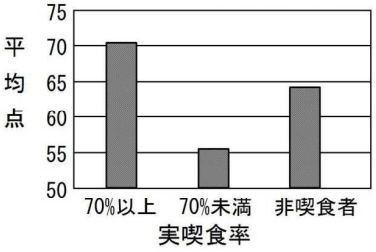
調査対象	毎日食べている	ほとんど食べていない	食べていない
全学年	36.2％	11.1％	4.2％
1～3年	27.7％	14.9％	6.4％

3 給食の必要性（給食がないと困るか）

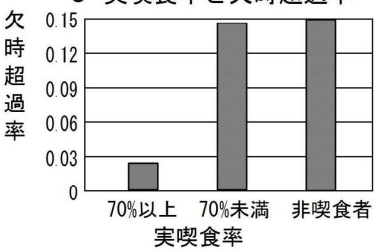
困る	特に困らない
81.0％	17.5％

宮城県貞山高校は喫食率と平均点･欠時超過率との相関を報告（4＆5）
埼玉高教組定通部緊急アンケート（6）　他に京都朱雀高校から報告。

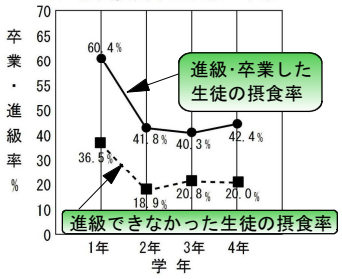
4 実喫食率と平均点



5 実喫食率と欠時超過率



6 給食摂食率と進級・卒業



第１分科会

地元の催し
「童神(わらびがみ)」

高校生フォーラム

4 高校生フォーラム　群馬～大阪の高校生６名参加

①定通制入学の経緯、②定通制の魅力、③学費問題やバイト、④制服、⑤今頑張っていること、⑥将来の夢等について会場の高校生を巻き込みながら意見交換。「人として温かい人が多かった」「勉強がわからなくても教えてくれる。中学校の先生たちに定時制高校のいいところを伝えてほしい」「温かい雰囲気があって、先生たちが関わってくれる」「定時制の方が居心地が良い。教師らに助けられている面がある」「（数字を見るのも嫌だったが）こんなに分かりやすい数学があるのか?!　あんなに苦手な数学がわかるようになって、問題を解くのが楽しくなった」「定時制の先生って向き合ってくれるんだなぁ」

5 特別報告Ⅱ「共育を大切に若者とともに歩む地元企業」
黒田 保光 さん（K-DIC 代表取締役社長）

黒田さん

地元愛あふれるまちの電気屋さん。近年失われつつある近所のおじさんのお節介が、若者と地域を元気にする実践を紹介。
「(お客様と）家族以上に家族になる」「地域に思いやりの輪を作る!」が企業理念。単にものを売るのではなく、生き方を提案。

黒田さんが PTA 会長をしていた中学校で教諭が事件を起こし逮捕。慎重な学校側に緊急保護者会を提案。自ら保護者に対して「先生の悪口を言わない」ことを訴え約束を取り付け、先生に対しても「卑屈にならず、今まで通り活動してほしい」と激励。初動対応を誤ると、子どもに悪影響が及ぶ。「子どもファースト」の一点で学校と保護者がつながることの大切さを共有。ピンチをチャンスに変えた１例。地域活性化の中心的存在で、講演活動でも活躍中。現在、高校現場で講師として授業も担当。

６ 鼎談「学校と社会をどうつなぐ」

東海林 智 さん（毎日新聞新潟支局長）
黒田 保光 さん（K-DIC 代表取締役社長）
黒沢 一樹 さん（NPO法人若者就職支援協会理事長）
中塚 久美子 さん（朝日新聞記者）コーディネーター

東海林さん：現在、日本の非正規雇用労働者の割合は49%。不安定で低賃金の非正規労働者と正規労働者の生涯賃金格差は１億円超。安倍政権が進める「働き方改革」によって、さらに企業が使いやすい安価な労働力へと若者が流し込まれていく恐れがある。「フリーランサー」とは、雇用契約によらない働き方。「残業代０制度」等、労働法がなかった時代に時計を巻き戻そうとしている。ターゲットの若年層を守るために、高校でも労働法の学習を本気で行わなければならない。

黒田さん：企業と学校のつながり作りも６年目。生徒を熱くするのも先生。水をかけるのも先生。若者は地域にとって大きな力。地域の身近な先輩として大切に育てる。

黒沢さん：最終学歴中卒、父親４人、名字変更５回、貧困、継父からの虐待、転職55回等、壮絶な人生。当事者性を活かし若者支援。著書『ネガポジ就活術』他。

参加者の感想

山本 朋子（佐世保中央通信）

２０１５年度に続き本年度も参加させていただきました。

今回、特に印象に残ったのは、産婦人科医院の院長である種部恭子さんによる特別報告「困難を抱える子供たちと性の問題」でした。望まない妊娠や出産をする若年者の多くは、大人による性的搾取の犠牲者であるということが明示され、「リスクの高いセックスをすることは、自傷行為と同じなのだ」という先生の言葉に、「自分が大切にされている」と思うことのできない若者の絶望感を感じました。

定通制の生徒は社会の犠牲になりやすいという悲しい実態があり、生徒に（中途退学させずに）学校生活を送らせ、自己肯定感を育てることが社会にとっても決定的に重要なことであり、私たちの使命は重いと肝に銘じました。

烏山 隆弘（鳴滝夜間）

定時制高校出身の若い先生が３名も参加。彼らの活躍は、私や生徒達の励みになります。講師のみなさんがそれぞれ放つ異なるオーラ。共通するのは、現場で鍛え上げてきた人しか出せない凄みのようなものに感じました。
性の問題については、タブー視せずに共有することができました。また、生徒の意見を顕在化させる手法や地元愛、労働法等、多くのことを学び、全国から参加のみなさんにパワーをいただいた３日間となりました。

濱本 功二（佐世保中央夜間）

定通部の学習交流集会に今年も参加させていただきました。朝日新聞記者の中塚さんの講演と産婦人科医の種部さんの特別講演の内容は、現在受け持っている生徒とオーバーラップして、改めて社会の弱者が厳しい環境で生きていかなければならない現実を考えさせられました。そんな中で、地元中小企業経営者の黒田さんの話には勇気づけられました。高い給与は受け取らなくても地元の人たちとの結びつきを大切にしながら生きがいを持って働くことが大切で、そのことが進路決定の際の大きな要因にもなると感じました。

本県からの参加者

中国・四国・九州ブロック
定通部学習交流集会のお知らせ
11月4日（土）～5日（日）
岡山で学習と交流を深めましょう!!